

奈良県立五條高等学校 平成 29 年度 学校運営協議会 定時制部会（第 1 回）

1 日 時 平成 29 年 9 月 19 日（火）19 時 30 分～20 時 30 分

2 場 所 奈良県立五條高等学校 校長室、

3 参加者 (委 員) 米田正人、沼田守弘 (校長)
(事務局) 山内雅雄 (定時制教頭)、堀口隆志 (事務長)
高谷伸也 (定時制教務部長)、辻本和正 (定時制生徒指導部長)
(記 録) 平岡 大 (定時制職員)

4 内 容

(1) 挨拶及び委員・事務局員自己紹介

(2) 定時制の現況について（教育課程、生徒指導等）

○ 教務部長から

過年度生からの問い合わせについては、数年前までは一定数あったが、最近ではなくなっていた。したがって、生徒の多くは、中学校において不登校であったり、集団に馴染みにくい生徒である。また、学力についても、極めて低位の生徒が在籍しており、学習指導面で厳しい状況にある。

また、中学校において、校内における進路担当間での経年引き継ぎ・連携が乏しいようで、本校の特色である「3 修制」があまり認知されない。

○ 生徒指導部長から

近年は反社会的な生徒よりも、対人関係が構築しにくい生徒やコミュニケーション能力に欠ける生徒等の非社会的な生徒が増加している。そうした中でも、きめ細やかな生徒指導を展開するとともに、教育相談等の充実を図り、在籍する生徒が誰一人欠けることなく卒業をさせてやりたいと取り組んでいる。

(3) 「県立高等学校定時制・通信制課程の今後の在り方に関する懇話会論点整理」について

○ 教頭から

内容説明を行う。

(4) 協議

① 生徒数の確保について

(質問・意見等)

生徒の受験者数が少ないのは、中学校は学年制であるがゆえに、例えば進路指導の実態等がなかなか経年では引き継がれないが現状である上、元々定時制に対するニーズが少ないのが原因にあるのではないかと。例えば、新規開拓のため、かつては内吉野地区の中学校進路協議会（中進協）に説明に行ったこともあった。大変であるが、こういった PR 活動を熱心に推進していくことが必要ではないかと。

また、本校生徒の場合、卒業中学校に戻って、定時制の実態等を報告してくれない。中学校には、定時制の実態がほとんど見えてないのではないかと。

五條市外の中学生にとっては、交通の便が悪いのが課題ではないかと。

(協議内容等)

まず、五條高校定時制を魅了あるものに充実させることが先決である。そして、本校定時制には待っていても生徒は来ないという危機感をもち、本校の魅力を材料に、粘り強く中学校に PR していく必要がある。

例えば、3 修制の PR についても、設置当初は、「夜間定時制で大学に行こう。」を合い言葉に周知を図っていった。今後は、「定時制では〇〇の資格取得を支援します!」「定時制では〇〇体験ができます!」等の新しい特徴を中心に中学校に働きかけていくことを検討すべきである。

また、本校を選択しにくい要因に、夜間であることと交通の便が悪いことが挙げられる。それらに対応するために、例えば、昼間と夜間の中間時間を開始とする新たな校時（夕間）を検討したり、スクールバスの運行時間の調整によってバス通学を利用することができないかなど柔軟に検討すべきである。

② 魅力ある定時制づくりについて

(質問・意見等)

全日制が無理だから定時制を選択したというような消極的な理由ではなく、定時制に行きたいや定時制が自分にはふさわしいといった積極的な理由で選択してもらえるよう、魅力ある定時制づくりが大切ではないか。そのためには、教育課程をもっと弾力的に運用できるように見直したり、定時制で学ぶことによって得られるメリットなどを構築する必要があるのではないか。例えば、資格取得を支援するとか、自己肯定感や自己有用感を醸成するような教育活動を積極的に組み入れるとかの取組が求められているのではないか。

(協議内容等)

魅力ある定時制づくりのために、主に次の4点について検討すべきである。

- ア) 生徒の実態に合わせて、学習したり行事等に参加したりできるよう、選択授業や選択の機会を多く設定する。
- イ) 教育課程の内容を見直し、「情報処理検定」若しくは「簿記検定」等の資格取得を一層支援する。
- ウ) 全日制の商業科及びビジネス部と連携したり、全日制の部活動と連携したりすることによって、全日制及び分校と一体となって教育活動できる機会を多く
- エ) コミュニティ・スクールとして、地域の方々や小中学校と協働する機会を多く設定する。

③ 卒業後の進路保障について

(質問・意見等)

高校は社会につながる学校という意識をもっと明確にもち、進路指導を展開する必要があるのではないか。そのためには、長期的なスパンにたったキャリア教育の構築が望まれるのではないか。特に定時制生徒の実態を考えれば、上述したような資格獲得への支援や自己肯定感及び自己有用感の醸成はもちろん、社会性、規範意識及びコミュニケーション能力などの育成にも力を入れることも意識する必要があるのではないか。

(協議内容等)

定時制の生徒の場合、進路教育やキャリア教育を行うに当たっては、基礎・基本的な能力の底上げと自己肯定感及び自己有用感の醸成から始めなければならない。そのためには、一つ一つの授業を大切にしつつも、課題に取り組んで仲間と一緒に解決したり、多くの選択肢の中から自分の意志によって選択し、それを最後までやり遂げる等の経験を多く設定できるよう、教育課程及び学校行事等の見直しを検討すべきである。

特に、社会体験を積ませるため、インターンシップや職業体験の機会を多く設定するとともに、それらの機会が生徒にとってやり甲斐のあるものになるよう、単位認定や有償化についても検討を行うべきである。

そのために、教職員が地域について研究する必要がある。本校がコミュニティ・スクールであることの利点を生かし、定時制の生徒の実態を理解してくれる事業所や卒業後の進路等においても援助してくれるような事業所等を開拓していかなくてはならない。特に、単位認定には評価が必要となるため、事業者とやりとりしながらレポート作成をしたり、例えばトラスト等で発表したりすること等について検討すべきである。

ただ、それらを行うにあたっては、大学等進学を目指す生徒に対しても進路保障できるように個別指導の機会を保障できるよう検討すべきである。

いずれにせよ、生徒の実態に合わせてられるよう、柔軟に弾力的なシステムの構築を十分検討すべきである。

- ④ 「未来の五條高校定時制の在り方を考えるプロジェクト」作業チームについて
今後、定時制の在り方を考えるため、作業チームの設置を提案し、了承された。

